

「築地を守る」(知事表明)というなら

豊洲移転はキツパリ中止を

食の安全・安心が
確保できない

日本共産党

小池都知事が豊洲移転を表明 共産党都議団「移転方針を再検討し築地再整備を」

築地市場の豊洲新市場(東京ガス豊洲工場跡地)への移転問題で、小池都知事は20日、記者会見し、市場を豊洲に移転するとともに、築地市場については、市場としての機能も残して再開発する基本方針を発表しました。この表明に対し、日本共産党都議団は談話を発表しました。その内容を紹介します。

小池知事が基本方針で「築地を守る」とした上で、築地を売却せずに市場としての機能を確保するための方策を見いだしていきたいと述べたことは重要です。

豊洲移転の方針には二つの重大な問題点があります。

一つは、「食の安全・安心」をどう確保するのかということです。豊洲新市場は、土壌も地下水も環境基準以下にするという無害化を達成できず、無害化を達成

するための対応策も示されていません。

いま一つは、「築地ブランド」をどう守っていくのかということです。それを担っているのは、仲卸の目利きの技です。豊洲移転では、仲卸業者の激減が起こりかねないと思います。

知事が、「食の安全・安心」に責任を負い、「築地ブランド」を守るというなら、豊洲移転の方針を再検討し、築地市場の現在地再整備のあり方を市場業者のみならずと協議すべきです。

築地で再整備こそ未来ある道

知事自身が「無害化できていない」と認めた豊洲新市場では、食の安全・安心は確保できません。経営面でも豊洲を開場すれば大赤字が発生します。一方、築地再整備なら黒字です。さらに築地市場業者の大半は築地に残りたいと考えています。築地再整備こそ安心・安全で未来ある道。実現へ日本共産党は全力をあげます。力を合わせましょう。



東京
民報
ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2017年6月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可